



TOHOKU
UNIVERSITY

Northeast Asia

Towards a New Paradigm of Area Studies

東北アジア 地域研究の新たな パラダイム

CNEAS
20th

東北大学東北アジア研究センター
創設20周年記念式典・国際シンポジウム

東北アジア研究センターは、1996年の創設以来、文理の学際的連携と、社会貢献を強く意識した研究プロジェクトを展開しつつ、東北アジア諸国の研究者・研究機関と国際的な研究協力を進めてきた。創設20周年を迎えようとするいま、東北アジア研究センターはこれまでの研究の成果を踏まえて、新たな地域理解のヴィジョンとして、あらためて東北アジア研究の意義を訴えたい。

記念講演会

12月5日(土)

時間 | 14:00~16:20

●講演1

「思想課題としての
東北アジア」

講師/山室 信一氏
(京都大学人文科学研究所 教授)

●講演2

「DNAから見た日本人の形成と
北東アジア」

講師/篠田 謙一氏
(国立科学博物館人類研究部 研究調整役)

参加費無料・要参加登録

※聴講ご希望の方は、下記
フォームURLより登録くだ
さい。

(URL) <http://goo.gl/forms/d789IYWjmr>

◆e-mail、FAX にも受付可能です。お名前と
参加希望の旨をお知らせください。

(e-mail) tohoku.ne.symp@gmail.com

(FAX) 022-795-3620



日時 2015.
12/5-6

会場 仙台国際センター
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
TEL: 022-265-2211
<http://www.aobayama.jp/>

12月5日(土) (受付開始 13:00 ~)

20周年記念式典 13:30 ~ 14:00

記念講演会 14:00 ~ 16:20

総合セッション 16:30 ~ 17:50

関連企画

- 1 地震災害後の人文科学プロジェクトの回顧と
研究者の役割の探求 (ワークショップ)
(10/24(土)~25(日) 会場: 東北大学東京分室)
- 2 Korea-Japan Joint Conference on Electromagnetic Theory,
Electromagnetic Compatibility and Biological Effect (KJIC2015)
(11/23(月)~24(火) 会場: 仙台国際センター)
- 3 第13回地下電磁計測ワークショップ (レーザー技術を用いた
遺跡調査)
(11/26(木)~27(金) 会場: 片平さくらホール)

12月5日(土)・6日(日) 9:00 ~

セッション群A Session

東北アジアの自然環境: 自然史

- ❖ 東北アジアの地殻変動
- ❖ 東北アジア生物多様性の起源
- ❖ 東北アジアの人類誌と環境適応

セッション群B

東北アジアの社会環境: 越境

- ❖ 個人史からみる東北アジアの人の移動
- ❖ 近現代における日韓双方の移住者の
生活実践
- ❖ 大気汚染と気候変動を含めた総合的な
アジア大気環境管理戦略
- ❖ モンゴル史及び東北アジア史における
大清国の歴史的位置
- ❖ 東北アジアにおける戦後秩序の形成

セッション群C

東北アジアにおける遺産の保存と継承

- ❖ 東北アジアの言語資料の電子化利用
- ❖ 歴史資料の保全と活用
- ❖ シベリアの湿地生態系の食物網と
寄生関係
- ❖ 狩野文庫の特徴について

CNEAS



東北アジア

検索

お問合せ: 東北大学東北アジア研究センター事務局 TEL.022-795-6009

●詳細はホームページをご覧ください
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/>

●開催日：2015年12月5日(土)～6日(日)
●会場：仙台国際センター

〔使用言語〕

日…日本語 英…英語 モ…モンゴル語

❖ セッション群A 東北アジアの自然環境：自然史

A1	東北アジアの地殻変動ーパンサラッサから環太平洋まで	平野直人	12/6(日) 9:00～12:30 / 会議棟小会議室 1	日 英
パンゲア超大陸が形成されたおよそ 2.5 億年前、現在の東北アジア地域はパンサラッサ海に面し、以降現在の環太平洋プレート沈み込み帯に至る地殻変動の地であり続けた。本セッションでは、現在に至るまでの東北アジアの地質、岩石、火山を紐解き、モンゴル・オホーツク海形成、太平洋海嶺沈み込み、千島弧衝突など過去の地殻変動を追う。				
A2	東北アジア生物多様性の起源	千葉 聡	12/5(土) 9:00～12:00 / 展示棟会議室 3	日 英
日本の生物相の起源を考える上で東北アジアはきわめて重要な地域である。本セッションでは、東北アジアの淡水域と陸域の生物相に注目し、その形成過程について最近の研究事例を紹介し、その多様性の起源に迫る。また、そのユニークな生物相が、進化生物学や生態学の一般的な仮説を検証するうえで、すぐれたモデル系となりうることを示す。さらに本地域の生物相と日本の生物相の関係から、日本の生物相の形成過程に本地域の生物相がどのような役割を果たしたかを明らかにする。				
A3	東北アジアの人類誌と環境適応	高倉浩樹	12/5(土) 9:00～13:00 / 会議棟小会議室 7	日
人類文化史の観点からみれば、東北アジアではステップの牧畜とタイガ・ツンドラ・海岸部の狩猟採集という環境適応が生み出された。この地域では、狩猟・漁労・牧畜・農耕が様々な形で複合して生業と社会組織を形成してきた。本セッションでは、考古学及び民族誌的に観察しうる局所的な自然環境のなかで展開した個別の生業複合に着目し、進化と適応の観点から分析することで、ミクロ環境のなかで人類集団が発揮しうる自然の利用・改変・保全の特質を明らかにする。				

❖ セッション群B 東北アジアの社会環境：越境

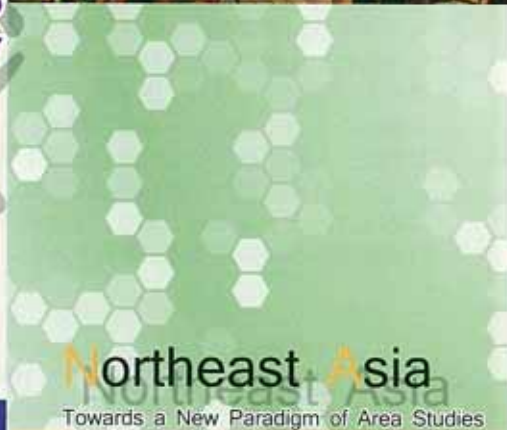
B1	個人史からみる東北アジアの人の移動 マルチサイトな人類学の挑戦	瀬川昌久	12/6(日) 9:00～12:30 / 会議棟小会議室 7	日
現代の東北アジアにおける人の移動を、個人のライフヒストリーの視点から微視的に検討することを通じ、フォーマルな政治経済事象のみには還元できない移民の動機や性に肉薄する。それは故郷、経由地、移住先といった複数の地点を調査地点とする「マルチサイト」な研究方法においても、文化人類学の新たな可能性を拓く試みである。				
B2	近現代における東アジアの移住者の生活実践 マルチサイトな人類学の挑戦II	李 仁子	12/6(日) 13:30～17:00 / 会議棟小会議室 7	日
フォーマルなデータやマクロなアプローチでは、東北アジア内における移住民は存在感が薄く、偏った解釈をされがちであった。しかし、多様な背景を持つ彼らは不慣れた時間と空間の中で自らの生活実践を切りひらき、既存のものとは異なる文化的な創造や独自性の発揮を成し遂げてきた。このセッションでは、近現代において東アジアから日本へ、あるいは日本から東アジアへ移動し、長く暮らした移住民たちの個々の生活実践をつぶさに検討する。そして、彼らが直面した移住先の場や歴史的な時間の中で自らの営みをどのように創り出し、再生産し、伝承してきたのかを跡付けつつ、同時に彼らが残したモノが時間の流れとともにどのように再解釈されてきたのかを論じたい。				
B3	大気汚染と気候変動を含めた総合的なアジア大気環境管理戦略	石井 敦 明日香露川	12/6(日) 13:30～17:00 / 会議棟小会議室 1	英
近年、健康影響をもたらすPM2.5の大気汚染に注目が集まっている。日本のPM2.5の議論には、新しい越境大気汚染問題として扱うべきPM2.5の対外政策を、変動しつつある東アジアの国際関係の中に具体的な課題としてどう組み込んでいくかという戦略が欠落している。本セッションでは日中韓の専門家が一同に会し、現在までの大気汚染に取り組む国際協力を整理・評価した上で、共通認識が醸成されているところはどこをどのように確認しながら、今後、日中韓が地域の安定と大気汚染の解決に向けてどのような国際協力を展開するべきなのかを模索する。				
B4	モンゴル史及び東北アジア史における大清国の歴史的位置	岡 洋樹	12/6(日) 13:00～17:00 / 会議棟小会議室 3	日 モ
17世紀に成立した大清国は、歴代中国王朝を悩ませ続けたモンゴル遊牧民の大半に対して、長期のわたる安定的支配を実現した。そこには、大清国独特のモンゴル遊牧民統治体制があった。本セッションでは、大清国のモンゴル遊牧民支配の特質を議論することを通じて、この時期をモンゴル遊牧民史、ひいては東北アジア史の中に位置づけるための議論を行う。				
B5	東北アジアにおける戦後秩序の形成	寺山森輔 上野裕弘	12/6(日) 9:00～12:30 / 会議棟小会議室 3	日
第二次大戦で敗北した日本は満洲、台湾、朝鮮の植民地を喪失したが、東北アジア地域ではその後の数年でモンゴル独立の国際的承認、国共内戦を経た後の中華人民共和国の成立、朝鮮戦争と朝鮮半島の南北分断の固定化が続き現在に至る戦後秩序が形成された。可能な限り新たな史料を用いて東北アジア地域におけるこの時期の戦後秩序の形成過程を明らかにし、今後のこの地域の平和的発展を展望することが本セッションの目的である。				

❖ セッション群C 東北アジアにおける遺産の保全と継承

C1	東北アジアの言語資料の電子化利用	栗林 均	12/6(日) 13:30～17:00 / 会議棟小会議室 6	日 モ
本セッションでは、東北アジアの諸言語の資料をパソコンおよびインターネットで活用するために、言語資料を電子化し、活用するための方法、およびその事例を検討する。対象とする主な言語と文字は、モンゴル系の伝統的モンゴル文字、パスパ文字、トド(オイラート)文字、キリル文字、および満洲語系の満洲文字、シボ文字等である。文字言語(テキスト)の電子化以外にも、文献資料(画像)および音声資料を電子化し、活用するための方法、およびその事例を検討する。				
C2	歴史資料の保全と活用ー19世紀日本の村落社会と生命維持	荒武 賢一朗	12/5(土) 9:00～13:00 / 展示棟会議室 1	日
本セッションでは歴史資料の保全に携わってきた研究者が、地域資料をもとに 19 世紀の日本の社会像を明らかにする。まず村落社会の運営や自治のあり方、経済的に困窮する人々を救済する体制を確認することで、「19 世紀日本型村落運営」のモデルを提示する。そして、医療の実情と、衛生についての社会的通念の変化を明らかにする。以上の二つのアプローチを複合的に用いて、当時の地域社会における人々の生活の維持の方法について議論を深める。				
C3	西シベリアの湿地生態系食物網と寄生関係	鹿野秀一	12/6(日) 9:00～12:30 / 会議棟小会議室 6	英
ロシア西シベリア中央部に位置するチャニー湖沼群は、広大な浅い内陸湖とその周辺の湿地帯からなっている。この地域における我々の研究プロジェクトは次の 2 点を目指している。1) チャニー湖沼群の湖や湿地における食物網構造について、生物の炭素・窒素安定同位体比を測定することにより明らかにする。2) 近年、寄生虫も食物網に包含することの重要性が指摘されていることから、湿地生態系における食物網に宿主・寄生虫 関係を組み込む先進的な試みを行うことである。				
C4	狩野文庫の特徴についてー明治の博物学者狩野亨吉の視点	磯部 彰	12/5(土) 9:00～12:00 / 会議棟小会議室 6	日
東アジア研究に対して、中国の古典籍は有益な情報の源の一つである。日本には多くの大小さまざまな東アジア典籍関係のコレクションがあるが、東北大学の狩野文庫は質量ともに代表的なものの一つである。狩野文庫は表面的な理解で止まることも多く、実質的な面で知られることは少ない。本セッションでは、三人の講演者から、狩野文庫のいくつかの特徴を紹介したい。				

東北アジア 地域研究の新たな パラダイム

記念式典・講演会



日時 2015.
12月5日(土)
13:30~16:20

会場 仙台国際センター
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
TEL: 022-265-2211
<http://www.aobayama.jp/>

参加費無料・要参加登録

※聴講ご希望の方は、下記フォームURLより
ご登録ください。

〔URL〕 <http://goo.gl/forms/d789IYWjmr>

◆e-mail、FAX にも受付可能です。
お名前と参加希望の旨をお知らせください。

〔e-mail〕 tohoku.ne.symp@gmail.com

〔FAX〕 022-795-3620



お問合せ

東北大学東北アジア研究センター事務局
TEL.022-795-6009

講演②
DNAから見た
日本人の形成と
北東アジア

篠田 謙一 氏

(国立科学博物館人類研究部 研究調整役)

山室 信一 氏
(京都大学人文科学研究所 教授)

講演①
思想課題としての
東北アジア

◎詳細はホームページをご覧ください
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/>

東北アジア

検索



東北アジア

地域研究の新たな

パラダイム

山室信一（京都大学人文科学研究所 教授）

1951年、熊本生まれ。東京大学法学部卒業。衆議院法制局参事、東京大学社会科学研究所助手、東北大学文学部附属日本文化研究施設助教授等を経て、現在京都大学人文科学研究所教授。法学博士。著書：『法制官僚の時代：国家の設計と知の歷程』（木鐸社、1984、毎日出版文化賞）、『キメラ：満洲国の肖像』（中央公論社、1993、吉野作造賞 増補版、2004）、『思想課題としてのアジア：基軸・連鎖・投企』（岩波書店、2001、アジア・太平洋賞特別賞）、『憲法9条の思想水脈』（朝日選書、2007、司馬遼太郎賞）、『複合戦争と総力戦の断層：日本にとっての第一次世界大戦』（人文書院、2011）等。

講演「思想課題としての東北アジア」

東北アジアとはいかなる空間なのであろうか？

例えば、シベリアはアジアに入っているかという問いに対して、多くの日本人は否と答える。地理学的な通説ではウラル山脈によってヨーロッパとアジアが分かたれるとされているにも拘わらず、である。そのことは心象空間と物理空間とが、必ずしも一致しないことを意味しているとともに、そもそも空間範疇をいかなる基軸によって切り分けているのか、という思想課題に私たちを導く。

さらに、地域研究においては人文・社会科学のアプローチでは時間軸よりも空間軸が重視されてきたが、時空間（クロノトポス）としての生態空間を生活世界として捉え直すための方法論的指針を提示していくために多文化空間で、かつ多自然空間ともいえる東北アジアがもっている有意性とは何か、に答えることも重要な思想課題となるはずである。

このような複層的な問いを前にして、東北アジアを研究対象とするという営為は、いかなる課題に応えようとするものであり、それは人文・社会科学にとって、さらには日本人にとってどのような意義をもつのかについて考えてみたい。

篠田謙一（国立科学博物館人類研究部 研究調整役）

1955年、静岡県生まれ。佐賀医科大学助教授、国立科学博物館人類第1研究室長を経て、2014年より国立科学博物館人類研究部長。2015年より国立科学博物館研究調整役（人類研究部長兼任）。医学博士。著書『日本人になった祖先たち—DNAから解明するその多層的構造』（NHKブックス）のほか、『骨の事典』（朝倉書店）、『日本列島の自然史』（東海大学出版会）などの共著がある。

講演「DNAから見た日本人の形成と北東アジア」

今世紀になって、さまざまなヒト集団のDNAデータが大量に生み出されるようになり、それを基にした集団の起源や拡散の研究が進められている。日本人の起源に関しても、旧石器、縄文時代を含む各時代のデータが揃いつつあり、従来の研究方法では知ることのできなかった日本人形成のシナリオが提唱されるようになってきている。その中で我々は、これまで主として関東以北の縄文人のDNA分析を続けてきた。北海道の縄文人が持つDNAは、データの存在しないこの時代のシベリア集団の遺伝的な性格を知る手がかりとなる。また、その後の北海道集団の遺伝的変遷が、沿海州の集団の影響を受けていることも明らかにした。本講演では、近年のDNA分析が明らかにした日本人の起源について解説し、東北、北海道の集団の遺伝的な変遷を、北東アジアにおけるヒトの移動の文脈の中で説明する。

会場のご案内

仙台国際センター

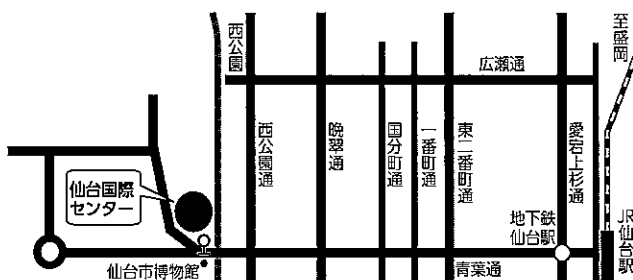
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無釜池
TEL:022-265-2211
<http://www.aobayama.jp/>

バス 仙台駅前9番のりばより
「宮教大・青葉台」、「宮教大」、
「宮教大・成田山」、「動物公園循環 青葉通・工学部経由」、
「交通公園・川内営業所」に
乗り、「博物館・国際センター
前」下車（乗車時間約10分）

タクシー

仙台駅から約7分、仙台空港
から約35分。

※地下鉄東西線（国際センター駅）は、12月6日（日）より開業予定。



2015年
12月5日（土）
13:30～16:20
入場無料
要参加登録